

## 早稲田大学 文化構想学部 英語 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	大問5題は例年の問題と同じ。Vの要約問題は今年度も Do not use more than two consecutive words from this page.の文言が付け加えられていた。テーマに関しては、今年度は文化構想学部らしく人文科学と社会科学に関連するものであった。自然科学系はなし。レベルは全体的に昨年並みか。Iの適語補充問題は昨年並み。IIの内容一致問題も昨年並みと言えよう。IIIの脱文挿入問題は意外と解きにくかったイメージがある。IVの会話文問題は今年度もかなり難しい表現が狙われた。Vの要約問題は要約の該当箇所のみ読みにくかった。出だしが書かれている一文を4～10語でまとめるわけなので、ポイントを見極める力が問われている。文化構想学部と文学部は同じ傾向を示すので、これから文学部を受ける受験生は、文化構想学部の問題に触れておくといいだろう。要約問題の英文のパターンが似ていることがよくある。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	適語補充問題	英文の量、レベルとも昨年並みか。昨年同様、難単語や難熟語が結構狙われた。make a case, lull A to B, barefoot, an array of～は確信を持って正解を出すのは大変だ。(12)などは対応関係で解く。～nationalities from different shores...sharing their cultures and a common language と the diversity of our community or the sources of our ( 12 )の関係が見えればいい。	やや難
II	内容一致問題	英文量、難易度とも昨年並み。(C)で新型コロナウイルスの問題が出された。ここはあまり落とせない大問と言えるだろう。ただ、今年度も(A)や(B)に悩ましい選択肢が散見された。IIIが時間をかけてでも正解を出さないといけない大問なので、いかに時間をかけずに正解を導くかがこのポイントだ。	標準
III	脱文挿入問題	英文量は昨年並み、難易度は正解選択肢を選びにくかったという意味で昨年より難化か。ここが苦手な受験生は本当に多い。基本的に1つ間違ると2つ間違える可能性が高いので、差がつきやすい大問だ。ここでいかに間違いを減らせるかがポイントになるだろう。今年度も選択肢に代名詞や接続語は結構あった。当然押さえるべきポイントだ。(25)は後ろの this cycle、(26)は直後の But、(28)は直後の First、(29)は直前のコロン、(31)は直後の Or, to put it differently などだ。to put it differently 「違った風に言えば」は表現は違うが同じ内容を次に述べると言っている、と考えるといい。	やや難
IV	会話文問題	分量は昨年より少なく、レベルは昨年並み。今年度も難しい表現が多かった(と言ってもネイティブ・スピーカーはよく使う表現なのだが)。What do you say? be wiped out droning be up for～ on the early side あたりである。かなり難しい。文化構想学部や文学部の会話文問題の特徴は、簡単な単語から成り立っている選択肢なのだが、これが意外と難しい。簡単な単語から成り立っている熟語も狙われる傾向が強いことを頭に入れておこう。また、選択肢の品詞の意識も重要だ。動詞の原形・現在形、ing、過去形・過去分詞、名詞、前置詞、副詞など文法的に入るかどうか意識が必要だ。	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
V	要約問題	<p>英文の量は昨年並み、レベルは要約する該当箇所のみ難化。難易度は標準としたが、該当箇所の内容がいまいちわからずまとめにくかったと思われる。一昨年は3つの段落、昨年は1つの段落、そして今年度は2つの段落から成る文章となっていた。要約の英文の出だしがすでに書かれていて、そこに4～10語から成る英語を書かせる問題。昨年からの指示だが、本文から3語以上の連続する語を使わないようにとのことだ。文学部、文化構想学部のかつての要約問題はピンポイントでまとめることが肝心だったが、このタイプの要約問題になってますますピンポイントの意識が重要となった。</p>	標準